
ヒマワリの写真

くれさと史香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒマワリの写真

【コード】

N0821M

【作者名】

くれさと史香

【あらすじ】

ヒマワリの写真にまつわる苦い思い出と、表現に関する私見。

ヒマワリの写真には苦い思い出がある。

一般的にヒマワリは、太陽の色をした花で明るいイメージが多いだろう。だがある出来事以来、私の中では索引が「警告」に変わってしまった。

数年前のことである。某所にて素晴らしい花の写真を見かけた。夏空とヒマワリの写真だ。その鮮やかな色彩に心を奪われた私は、思わず撮影者に感想文を送る。「大変すばらしい写真で、本物のヒマワリを見に出かけたくくなりました」

返事はすぐ、予想外な形で返ってきた。

「私がヒマワリをどうとらえたのか、そこを見てほしかったのですが」

あきらかに失望している文面だった。

二つのことに私は気がついた。

一つは、何気なく書いたつもりでいながら、感想が言われると思いついていたふしがある。褒めているのだから当然というわけだ。我が事ながら本当に恥ずかしいかぎりである。

二つ目は、ヒマワリの撮影者と私は、表現について意見が真逆ということだ。「こういう風に見てほしい、それ以外は認めない」とは、傲慢としか思えない。

他人は自作品の評価者として存在するわけではない。それぞれの思惑を生きる人間なのだ。

断っておくが、私とて酷評や批判に傷つかないと言い切れるほど完璧な人格ではない。

だが一旦発表した以上は、思わぬ言葉や影響が返ってくることは

覚悟しなければ、と膝を震わせながら足を踏ん張っているのである。
ヒマワリは私にとって、思いあがり戒める警告の花なのだ。

(終)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0821m/>

ヒマワリの写真

2010年12月18日15時10分発行